

## 日本型食生活や郷土食を見直そう



公民館内牧分館（高宮晴夫館長）主催の「親子で学ぶ食育実習講座」が7月17日、農村環境改善センターで行われました。

昨年好評だった講座とあって今年も約30人の親子が参加。食生活改善推進員協議会阿蘇支部の方々の指導のもと、“簡単につくれる郷土料理と手作りおやつ”として、冷や汁、ニラ玉あんかけ、ブラマンジェの3品が調理されました。参加者は作業を通じて、手作りの楽しさ、また、阿蘇で昔から親しまれる料理のすばらしさにふれ、日本型食生活を見直すよい機会となりました。試食後も、食改による紙芝居や劇での食育があり、楽しく「食」を学びました。

## 友好の絆。 台湾から阿蘇市を通じ義援金



阿蘇ライオンズクラブ（草尾幸隆会長）とよきにわたり姉妹クラブとして交流を行っている台湾台北市中区ライオンズクラブから、「東日本大震災の被災地復興のため役立ててください」と、義援金31万円が6月初め阿蘇ライオンズクラブへ送られてきました。

両クラブは相互訪問や文化・スポーツなど様々な分野を通じて友好を深めており、その縁あって、今回の震災についてもいち早く行動に移されたということです。なお、ライオンズクラブ国際財団は6億円を被災地に寄付していますが、これとは別に募られたものです。

義援金は阿蘇市を通じ被災地へ送金されます。

## 碧水小学校放課後子ども教室が 水難訓練



7月15日、碧水小の放課後子ども教室において、阿蘇広域消防本部の消防士による水難事故防止訓練（着衣泳）が行われました。

これは、プールや海、川へ行く機会が増える夏休みを前に、児童たちに水難事故に対する知識を深めてもらおうと企画されたもので、児童たち約50人が参加しました。訓練では、実際の事故を想定し、衣類を着たままプールに入り浮いて救助を待つ方法や、友だちがおぼれかけた時どう行動するかなどがあり、1時間半にわたる訓練に皆真剣に取り組みました。

## 建築労働組合が奉仕活動



熊本県建築労働組合阿蘇支部（山口純作委員長）は、自分たちの技術を地域社会に役立たせようと、毎年奉仕活動を行っています。今年は、山田保育園、内牧保育園、黒川保育園の天井や床、戸口の修理、棚の取り付けなどされ、2日にわたり汗を流されました。

山口委員長は、「東日本大震災で東北の多くの組合員が亡くなった。家や道具を失った者も多く今最も必要とされる職業ながら動けない現状。今後も引き続き支援するとともに、阿蘇市においても一人暮らしの高齢者への奉仕などを行っていきたい」と話されました。